

 評価のポイント

CL- I .ニーズを捉える力（共通）

〔17-1〕 認知症の事例（MCI）

① 軽度認知機能障害（MCI）かもしれないと疑う視点について説明してください

- ・ 何度も同じことを質問したり、話したりする
- ・ 置き忘れや探しものをする頻度が多くなった
- ・ 日常生活は遅れているが、本人や家族によって物忘れを指摘されることが多くなった
- ・ 慣れ親しんだ家事・作業に時間がかかるようになった
- ・ 社会的にインパクトが大きな最近のニュースの記憶が曖昧になっている
- ・ これまで楽しんできた趣味や人付き合いを避け、外出が億劫がるようになった

上記のような兆候に当てはまる場合、本人の自覚がなく MCI が進んでいる可能性も考えられる。（スライド P 4 ～ 5 を参考）

② MCI と認知症の違いについて説明してください

- ・ 物忘れでは MCI は認知症に近い物忘れから年齢相応もあるが、認知症では体験したことの全部を忘れ、ヒントがあっても思い出せない。
- ・ もの忘れの自覚は MCI にはあるが、認知症では自覚が薄れ、取り繕うことがある。
- ・ 症状の進行は、MCI では放置すると認知症へ予防取り組みにて改善も期待できるが、認知症は徐々に進行する。
- ・ ADL では MCI ではほぼ自立しているが、認知症では中等度からは介助が必要になってくる。
- ・ IADL では、MCI ではミスは目立つがほぼ自立している。中等度の認知症からは支援が必要になってくる。
- ・ 判断力では、MCI では保たれることが多いが、認知症では低下することが多い。

（スライド P 6 を参照）